

令和4年度第2回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和4年12月9日（金）午後2時00分～午後3時35分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、由良委員、足立委員、善積委員、塩見育委員、中井委員、
芦田委員、西村委員、塩見建委員

欠席委員：河西委員、加賀山委員

事務局：山路館長、四方次長、塩谷係長、塩見係長

傍聴者：なし

議題：（1）令和3年度図書館年報について

（2）「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和3年度実績報告について

（3）令和4年度 図書館事業報告（令和4年4月～11月）について

（4）「令和5年度 社会教育の重点」の作成にかかる、図書館活動の重点目標について

（5）三和分館の移転計画について

（6）除籍本の施設提供及びリサイクル市の実施について

（7）蔵書点検について

（8）その他

<委員長あいさ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和3年度図書館年報について

～資料「令和3年度図書館年報」に基づき、事務局から説明～

内容：図書館年報の主な内容について

事務局：それでは、「令和3年度図書館年報」の報告をさせていただきます。事前にお送りしております、ピンク色の表紙の冊子をご覧ください。

「図書館年報」とは、図書館の沿革や資料冊数・利用状況などの各種統計、一年間の利用状況、実施した事業などをまとめ、年度ごとに発行している冊子となります。

委員の皆様には、事前に図書館年報をお送りしたところですので、主要な部分を中心に説明いたします。

表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。内容は、大きく8項目を掲載しております。

4ページをご覧ください。令和3年度の図書館の沿革について、掲載をしております。令和3年度の4月、5月については、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館や大幅なサービス提供の制限をせざるを得ない状況となりました。

8月には、職員が新型コロナウイルスに感染したことによる臨時休館も発生しました。

また、新たな事業として、1月に「ふくちやま電子図書館」を、2月には「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」及び「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」の提供を開始しております。

9ページからは「図書館資料の概要」を掲載しており、所蔵資料の数は、令和2年度の「328,237冊」に対し「5,713冊」増の「333,950冊」となっております。

15ページからは令和3年度の「利用統計」を、25ページからは平成28年度以降の「各種統計の推移」を掲載しております。

所蔵資料数は、毎年増加をしている状況にありますが、実利用者数、貸出点数、入館者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度に比べ、令和3年度は減少をしました。

また、22ページには新たに導入をしました電子図書館の状況について、記載をしております。令和3年度末で取り扱っておりますコンテンツ数が20,918件、貸出数が57,368件となっております。

27ページからは、事業報告になります。講座・講演会やおはなし会等の各種イベント、毎月の企画展示等、各館の実績を掲載しており、昨年度の委員の皆様のお名前と、活動報告として、第1回から第3回図書館協議会の協議事項も掲載いたしました。

最終の38ページには、各種指標を載せております。

以上、駆け足となりましたが、令和3年度図書館年報のご報告とさせていただきます。

委員：これは、2021年度の報告ですので、雑誌スポンサーに今年なられた事業所などは、次年度の掲載になるということでしょうか。

事務局：はい。今回は、令和3年度の報告ですので、今年の4月1日以降の事項については、次年度の年報に掲載させていただくことになります。

委員：貸出冊数について、電子図書館を含めての貸出冊数と、それが無かった時代のコロナ禍以前の貸出冊数で見たときに貸出冊数的には増えているのでしょうか。

事務局：合計しましても令和元年度の貸出冊数には届かない状況ですが、ただ令和2年度と比較すると若干盛り返してきている状況にあります。

委員：では、電子図書館を開設した価値は十分あったと思いませんか。

事務局：はい。特に小中学校の児童生徒にID・PWを付与したことは非常に大きいと思っております。導入した価値はあると思っております。

2 「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和3年度実績報告について

～資料「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画実施状況調査」に基づき、事務局から報告～
内容：令和3年度の取組み状況について

事務局：第3次福知山市子どもの読書活動推進計画を令和3年2月に策定しまして、今回の令和3年度の実績報告は計画の1年目の報告になります。

令和3年度につきましては、令和2年度に引き続きまして、コロナ禍による、緊急事態宣言や臨時休館もあり、大変残念でしたが、サービスの制限を余儀なくされました。

令和3年度につきましては、コロナだからやらないのではなく、with コロナとしてできることを工夫しながら取り組んできました。

ブックスタート事業におきましては、「家庭で本と出会う」の中で、4か月検診時にブックスタートボランティアさんによる1対1での読みきかせを行うことができず、図書館で読みきかせ体験を実施しました。

また、「暮らしに読書を、おうえん貸出セット」を活用した読書の啓発、今年1月より開設しました電子図書館を利用させていただいております。

各関係機関からの報告を各委員から取りまとめて作成していますが、問題点や課題について、把握できていないところがあります。

貸出セットや電子図書館は、導入して月日が浅く、放課後児童クラブ指導員研修会や学校司書研修会などで、実際現場で使われる方に具体的な課題や問題点をあげてもらったり、アンケートを実施するなどして、課題を洗い出し、検証を行っているところです。

また、各関係機関から図書館に求められている読書支援サービスにお応えできるよう、出張おはなし会やブックリスト、ブックトークマニュアルの作成、より利用のしやすい貸出セットの貸出方法について検討しており、ブックリストについては、いくつか作成できまして、放課後児童クラブ指導員研修会で紹介をさせていただきました。

引き続き、各関係機関と連携を取りながら、計画の遂行に努めてまいりたいと考えております。

委員：おうえん貸出セットなのですが、開始当初すごく人気ですぐになくなり、なかなか借りられない状況だと聞いていたのですが、この間司書の研修会でお話することがあったのですが、最近それがあまり稼働が無いということだったのですが、貸出しの促進についてお聞かせください。

事務局：最初の年はたくさん借りていただいていたのですが、最近意見をお聞きしたところ、「その時だけのものだったと思っていた」とか「もうないんだと思っていた」というような意見もお聞きしており、こちらからのPRも不足していたと反省しているところです。貸出セットの内容もどんなものがあるかということが、お知らせできていないところもあつたりしますので、もう少し具体的にお知らせできればと、特に高学年セットがなかなか使われていないのですが、人気の本とかもたくさん入っていますので、放課後児童クラブとか学校の司書さんが集まられるような場でPRしていけたらと考えています。

委員：私もあの後、聞いてみたのですが、おうえん貸出セットが今もあることを皆さんご存じなくて、やはり皆さん最初スタートした時すぐに借りられて無くなったので、そんなにセットがないと思っておられたようですので、再度PRさせていただいて、すごくいい本も入っています

し、皆予算が少なく、本を買いたくてもなかなか買えないので。

委員：全校にPRしていただく時に、従来でしたら教育委員会から各校の管理職、管理職から図書館担当、図書館担当から全教職員に情報がまわっていくやり方というのが、一般的なのですが、こういうPRの場合は全職員にグループメールというのがあります、そういうものを活用していただけたらと思います。

委員：学校と図書館がもっとつながるにはどうすればいいのだろうと考えるのですが。私は、図書館に入ったらワクワクするのですが、図書館には本がいっぱいあって、一方で学校では本が足りないとか、なかなか購入できないという状況があって。バックにこんなにたくさん本があるのに、うまく連携がとれないのだろうかと思うのです。人と人が情報交換できるような関係づくりをするような場所のようなものが出来ないかと思うのです。例えば、学校の図書館司書の勉強会に各地域の図書館担当者が参加して情報交換をするとかです。

図書館のノウハウなどを学校に伝えることによって、もっとワクワク感が生まれる状況がつかれるのではないかと思うのです。

委員：今の話は学校司書の役割ではないかと私は思って聞かせていただきました。私が、ここに応募して協議会委員になったのも、学校教育との連携が大変大切なことではないかと考えて応募しました。今現状として、ここにあります司書という人たちがどんなふうに福知山市でおられるのかも分かっていないまま発言しており恐縮ですが、そこらへんも何かデータがないかと思っています。ひょっとしたら小さな学校は掛け持ちで学校を持っておられるのではないかと思います。

委員：中学校のブロックごとに司書はおりますので、司書は7人です。そのためブロック内の学校を掛け持ちしています。

委員：定期的に司書の方たちの集まりはあるのですか。

委員：そこらへんが、位置づけとしてしっかりしていれば、今委員の言われたことについても改善するのではないかと思います。

事務局：ちょうど先日、図書館司書研修会を実施させていただきました、司書の7人に集まっていた、図書館の職員も参加し、そこで課題点などのいろいろな話もさせていただいたりしております。

委員：私は、長い間学校に勤務し退職して数年たちますが、在職時には月に2回ほど全校児童が下校の際に夜久野分館に行って本を借りて帰る機会を設けてありました。そこで、図書館と学校の連携がよくできており、子どもたちも非常に楽しみにしておりました。それから、貸出セットみたいなものを、学校の図書主任が、当時は図書館司書さんもおられない時代でしたので、図書館主任が図書館に行って選書をして持って帰り職員室前にある本棚に並べ、子どもたちが自由に読めるよう活躍しておりました。条件的にもよかったのですが、当時は学校と地域の図書館がうまく連携していたなと思います。今、色々な学校をめぐるなかで、そういう連携がなくなってしまう気がして悲しい思いもしています。あと、学校司書さんがすごく学校の中では、図書関係で活躍しておられます。図書館の経営や新しく入った本の登録、今月のおすすめ本などの選書など、学校司書の力によって、学校の図書館は運営できていると思

います。その中で、図書主任と一緒にやっていくかというところとすごく疑問に感じています。図書館司書に任せっきりで、図書主任の役割をちゃんと果たしているのだろうか、私が現役の時代と変わってきているなど感じています。連携する時間、相談する時間があまり無いにしてももう少し関われないのかと思います。そういう意味でも図書館司書の力は大きく、それで学校の図書館は運営できていると思っています。

あと、この実践報告の中には素晴らしいことがいっぱいあがっています。例えば、読書タイム、朝読書を継続しています。されている学校少ないのが現状ですね。削られています。読書タイムをどこに入れるのかというと、テストが終わった隙間の時間とかですね。テストが早く終わった子は本を読んだときなさいみたいな感じで、時間を取ってきちっと設定されているのか疑問です。タブレットに変わってきています。タブレットを使って電子図書館の本を読んでいる子も数人いますが、紙媒体の本を読んでいる子は少ないです。

委員：うちの学校ではそんなことはないですね。紙媒体の本をすごく読んでいますよ。朝読書の時間は紙媒体しかダメにしており、朝休みの時間は電子書籍を読んでも、時間帯で切り替えていますね。

委員：そういう学校がたくさんあればいいのですが、紙媒体からタブレットに変わってきているなどというのが実感です。まあ、電子書籍を活用していることは良いことなのですが。

委員：たまたま、先週の土曜日機会があってある学校に行くことがあった際、チョット驚いたのですが、読書をするのを推進されているようで、色々な所に本を置いてられたのですが、置いてある本が結構ベストセラーを中心に置いてられまして、7年生を4班に分けて図書室の利用率を増やす検討をされた結果が貼ってありました。うち2班の検討結果が流行っている本を置こうというような意味を言っているようでしたので、その結果かなとも思ったのですが、あまりにも一般書店のベストセラーに偏りすぎていて、私の感覚からするとこの本を中学3年生までに読ませていいのかと思う内容の本も結構ありました。司書さんがこれを考えておられるのか、学校が考えておられるのかはよく分からなかったのですが、どういう本が教育に向いているのかは一概には言えませんが、ベストセラーに偏らず、広い視野を持って本と付き合えるようなプランの提示とかも必要ではないかと思いました。貸出セットとかのプロの司書さんが選書された本を送り届けてあげるのも意味があるのではないかと思います。学校の近隣に書店がない影響もあるのかもしれませんが、流行作家の本や本屋大賞の本を並べておくのではなく、教育という観点から考えるともうちょっと別の本を読んだ方がいいのではないかと私的には思う所があり、その辺の選書を図書館に関わっていただけるといいのではないかと思います。

委員：学校の現状として、教育の時代による要請に応えていかなければならないという所を考えた時に限られた時間の中で、子どもたちに何をさせていくのか、その中で学校は今苦労しているところですね。朝読書という取り組みがなぜ始まったのかももう一度振り返った時に、学校が、子どもたちももっと心が荒れていた時期に、朝読書という取り組みがどれだけ効果があるのかということに教師が気付いていきながら、その取り組みが広がっていたのではないかと思います。例えば本校でいうと全学年で朝読書は継続実施しております。朝、落ち着いて椅子に座って机の上の本に集中してゆっくりスタートする時間はとても大切にしています。それ

を継続していくことは、とても大事なことであると思っています。しかし、本校ではそれが出来ていますが、時代の要請に応じていく中で、どの学校でもそれが出来る状況かというところと答えにくいところがあります。

本校については、通常の図書館に加え小さな図書館というものを作ったり、各教室の前には分館から借りて来た本を置かせてもらっていますし、近くに分館もありますので、恵まれた環境にあると思いますが、どの学校でもそういう環境にある訳ではなく難しい所もあります。

3 令和4年度図書館事業報告（令和4年4月～11月）について

～資料「図書館事業報告（令和4年4月～令和4年11月）」に基づき、事務局から報告～

内容：新型コロナウイルス感染症にかかる図書館の対応状況、移動図書館、乳幼児向け事業、小学生向け事業、中高生向け事業、大学生向け事業、館内展示、バリアフリーサービス、「暮らしに読書を、おうえん」貸出セット、その他イベント・講演会等、図書の寄贈等の事業について報告

事務局：令和4年度の図書館事業報告をさせていただきます。半年強の間、図書館で実施しました事業について一覧表にさせていただきます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響については、おかげさまで臨時休館をすることなく現在まで来ております。10月13日には若干ではありますが、閲覧席の制限を限定的に解除することが出来ました。現在は、座席の間隔を1メートル取り配置をする形で運営をさせていただきます。

移動図書館については、令和4年11月末現在で市内40拠点を移動図書館2台で月1回巡回させていただいており、令和3年度から自治会1か所、福祉施設1か所増えており、12月からもう1自治会増えて、41拠点をまわる予定としております。

乳幼児事業の「えほんのえや」などについても、今年度は中止することなく各月実施をさせていただきます。

図書館だよりについては、昨年度までは紙ベースで発行していたものを、小中学校で1人1台タブレットが配置されたことを受け、データ配信に切り替えをさせていただきました。

また、中央館、分館ともに小学校2年生の図書館見学に対応したり、それぞれ独自の事業に取り組んできました。

4月1日には、例年ではありますが、福知山公立大学の新入生を対象に図書館利用の促進のためのガイダンスを行い、各月テーマを決めて本の特集展示を実施したり、公的機関とのコラボ啓発展示などを実施しております。

委員：子どもの読書活動推進計画の方に書いてあった「60歳からの読み聞かせ講座」に私参加したのですが、参加者がすごい人数でした。常々私思っているのですが、コロナ禍なのでしかたがないとは思っているのですが、「えほんのへや」とかはあるのですが、大人を対象としたおはなし会とかがもっとあっていいのではないかと思っているのです。夜久野分館ではやっておられますが、大人のためのとか対象年齢が書いてあるといいのですが、それがないと

大人だけではなかなか参加しにくいので、もっとそんな機会が増えていいのではないかと思います。大人の読書を楽しむ会みたいなものももっと図書館側配信であってもいいのではないかと常々思っています。

委員：体感としてコロナ禍前と比べてどの程度戻ったと感じられていますか。

事務局：申し訳ありませんが、ここにいる職員でコロナ禍前を知っている者がいないもので。ただ、窓口に出ていると忙しいと感じる時でもこんなもんやないで、と言われますのでコロナ禍前に比べるとまだまだの状況であると思われま。

委員：先ほど60歳からの読み聞かせ講座の話がありましたが、私は今西茂子さんの講演会に参加させていただいたのですが、すごくよかったです。自分で本を読むということが読書活動の第一かと思うのですが、大人になって人に本を読んでもらって、すてきな演出もあり、話も涙がでるくらい感動しました。職員の方は仕事として図書館の事業をされているので、この報告書を見るとすごく忙しく大変だと思うのですが、一年に1回でも2回でも大人のために図書館を開放するようなワクワクするようなイベントがあってもいいのではないかと思います。今西さんに絵本とか本のおすすめ一覧をいただきまして、後日図書館のホームページを見たのですが、実施しましたと書いてあるだけでそういう資料とかは載せてなかったので、可能であるなら、そういう資料とかも掲載していただいてもいいのではないかと思います。

4 「令和5年度 社会教育の重点」の作成にかかる、図書館活動の重点目標について

～資料「社会教育の重点（抜粋）」に基づき事務局から提案～

内容：社会教育の重点に係る図書館の重点目標の見直しについて

事務局：昨年度、電子図書館を導入したということで、その中で電子書籍貸出サービスの関係でハイブリット図書館をめざす旨の記載を入れて見直しを行っておりますので、事務局としては今回は見直しを行わず、継続目標という形で考えております。ただし、令和6年度以降の見直しの参考にするため、ご意見をいただいておりますのでよろしくお願い致します。

委員：たしか、数年前に大きく見直しを行い、現在この形に落ち着いたと思いますし、特に現状大きく変動したとか、合わなくなったということはないかと思うのですが。

事務局：昨年度は、電子図書館の関係で見直しを行いました。あくまで大きな目標ですので、毎回変えるようなものではないと思っておりますし、何か大きく変わる時が見直しの機会と考えております。

委員：数年前、図書館の意義とはなにか、図書館の本質はということをお話して見直し、そこに電子図書館のことが入ったので、これでいいのではないのでしょうか。

5 三和分館の移転計画について

～資料「三和分館移イメージ図」により事務局から説明～

内容：三和分館の移転計画の進捗状況について

事務局：三和分館の移転計画の進捗状況についてご報告します。

この移転計画については、三和支所庁舎改修工事と一体工事で進めておりまして、7月に設計業務が完了し、工事業者の入札を行い、先日、無事に落札業者が決定しました。本契約につきましては、議会の議決が必要となるため、現在、福知山市議会12月定例会に工事請負契約の締結について議案を上程中であり、議決がえられましたら本契約を締結し工事着工となります。年明けの1月から着工を予定しています。

当初の見込みは工期を半年と見込んでおりましたが、資材の調達に時間がかかるということもありまして、工期は1年ほど見込んでいます。来年の12月ごろ完成を予定しています。

三和分館のイメージ図を資料に添付しております。面積は約倍になり、棚の高さも低めにして、ゆったりとくつろげる空間になっています。蔵書数は現在の2万冊から児童書を中心に1,000冊増やす予定です。また、キッズスペースの拡充、授乳室の新設等、子育てにやさしい図書館として設計しております。さらに、三和支所共有スペースを活用して、絵本作家によるオリジナルイラストを作成して、フォトスポットにしたり、2階ロビーを飲食ができるフリースペースとして活用できるように検討しております。

また、図書館の開館日と支所の開所日が異なるため、いつ開いているのか分かりやすくするため、図書館の赤のカラーでわかりやすい看板の設置を考えています。駐車場につきましては、30台駐車可能、いこいの広場を開放すれば、さらに30台の駐車スペース確保でき、イベントにも対応が可能です。移転にあたっては、現在の三和分館は2カ月ほど休館して引っ越し予定です。オープンに向けて時間ができましたので、よりよい図書館になるよう、進めているところです。

委員：来年度の12月にオープンということで、規模も大きくなり、蔵書数も増えるということで、期待をしております。

委員：今、三和分館の職員は何人おられますか。

事務局：3人です。

委員：増員は考えておられないのですか。広くなってもそのままの予定ですか。

事務局：現行の3人については、そのままの予定ですが、それ以外については現在のところにも決まっていない状態です。

委員：オリジナルイラストの絵本作家による作成とかはもう決まっているのでしょうか。

事務局：現在予算要求をしているところであり、予算が付けばということが前提となります。

6 除籍本の施設提供及びリサイクル市の実施について

～資料「リサイクル市のチラシ」により事務局から説明～

内容：除籍本の施設提供及びリサイクル市の実施について

7 蔵書点検について

内容：蔵書点検の実施について事務局から説明

事務局：除籍本の施設提供及びリサイクル市の実施と、次の蔵書点検について関連がありますので併せて説明をさせていただきます。

まず、除籍本の施設提供及びリサイクル市の実施についてです。

図書館では必要性が高く、良質で新鮮な資料の構成を維持するため、図書館の所蔵する資料の廃棄について取り扱いを定めています。廃棄の対象となる資料は、破損、汚損が著しく補修が不可能なもの、時間の経過によって内容が古くなり資料価値がなくなったものを除籍本としております。

除籍本の廃棄にあたっては、資料の有効活用を図るため、まず最初に小中学校、幼稚園、保育園、児童館、公民館などの市立の機関70施設で希望される施設への提供を行い、そこから残った資料に除籍した雑誌を含めて、希望する市民へリサイクル市として提供を行います。さらに残った資料は市役所市民課を通じてホンデリングプロジェクトへの提供を行い、最後まで残って再利用できないものは古紙資源として廃棄する流れとしております。

なお、昨年度から除籍本に児童書や絵本が少ないため、廃校の図書室から活用できそうな廃棄図書を含めて施設提供するようにしています。会場のコンテナに入っているのが廃校図書から持ってきた約1,200冊の図書になります。施設提供の期間は12月13日（火）から12月15日（木）までの3日間です。

3年ぶりの開催となりますリサイクル市については、別添資料としてチラシをつけておりますのでご覧ください。期間は12月16日（金）から12月18日（日）までの3日間です。3密を避けるために、施設提供もリサイクル市も時間を決めて事前予約の入替制としています。場所は図書館2階研修室です。リサイクル市の現在の申し込み状況は各日100人で計300人の枠に対して160名となっております。

次に蔵書点検についてです。

蔵書点検は、図書館の蔵書が存在するか、正しい場所にあるか、データ内容が間違っていないか、破損している資料がないか等を点検・修正し、図書館の蔵書を管理するために行う作業です。年度内に1回実施し、この点検で5年不明の資料は除籍としています。

蔵書点検の実施期間は中央館が令和5年2月13日（月）から2月17日（金）までの5日間、三和・夜久野・大江の3分館が令和5年2月22日（水）から2月23日（木・祝）までの2日間です。

なお、蔵書点検に伴い中央館では2月14日（火）から2月17日（金）までの4日間、三和・夜久野・大江の3分館は2月22日（水）を休館といたします。説明は以上です。

委員：これは例年されている事業ですか。

事務局：リサイクル市については3年ぶりということで、コロナ禍で実施できておりませんが、それまではそのとおりです。

委員：大体どれくらいの除籍本があるものですか。

事務局：例年、大体3,000冊くらいありますが、大半が雑誌です。本については一般書中心に1,000冊程度になります。

委員：私も除籍本がこのような形で市民の方に還元されていることは知りませんでした。いい方法であると考えますし、広報を是非がんばっていただいて周知に努めていただきたいと思いますと考えます。

委員：1人でもらえる本の冊数は決まっているのですか。

事務局：はい、前回まででしたら1人10冊でしたが、今回は廃校の図書も含めて1人20冊程度で調整をしております。

委員：別件ですが、11月12日に三段池にオープンしましたリトルハピネス、行政の子育て支援の施設なのですが、そこに図書館の絵本が約30冊あって、別途タブレットが数台あったのですが、いい取り組みだと思いました。絵本だけではちょっと物足りない部分をタブレットで電子書籍が見れて、その職員の方に使い方教えていただけたので、連携がすごくいいなと思いました。

<閉会挨拶>仲野副委員長